

クラウドアダプションセミナー 本稼働後のSAPクラウドソリューションで効果を創出する施策 ～SAPとWalkMeで実現するデジタルアダプション～

SAP Japan & WalkMe Japan

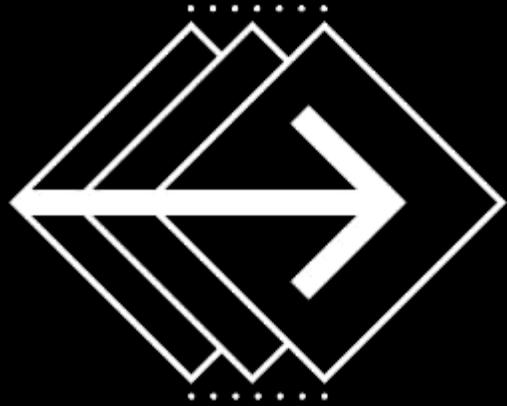
December 5, 2024

CONFIDENTIAL

Agenda

1. クラウドアダプションセミナーの狙いとSAPの戦略
2. WalkMe x SAP によるデジタルアダプションプラットフォーム
3. NIPPON EXPRESSホールディングスのデジタルアダプション成功事例

1. クラウドアダプションセミナーの狙いとSAPの戦略



デジタルトランスフォーメーションの取り組みは豊富ですが、目標とする成果を達成している企業はほとんどなく、明確な成功を挙げている企業はわずか34%です。

デジタルトランスフォーメーションにおけるお客様の主要なチャレンジ

<North Star>

DXの目的やビジョンの共有への理解促進

<People>

新しいシステムや新プロセスに対する教育

<Organization>

組織文化の変革、抵抗勢力への対応

<Data>

サイロ化 (部門毎) したデータに対する
共通データモデルの作成

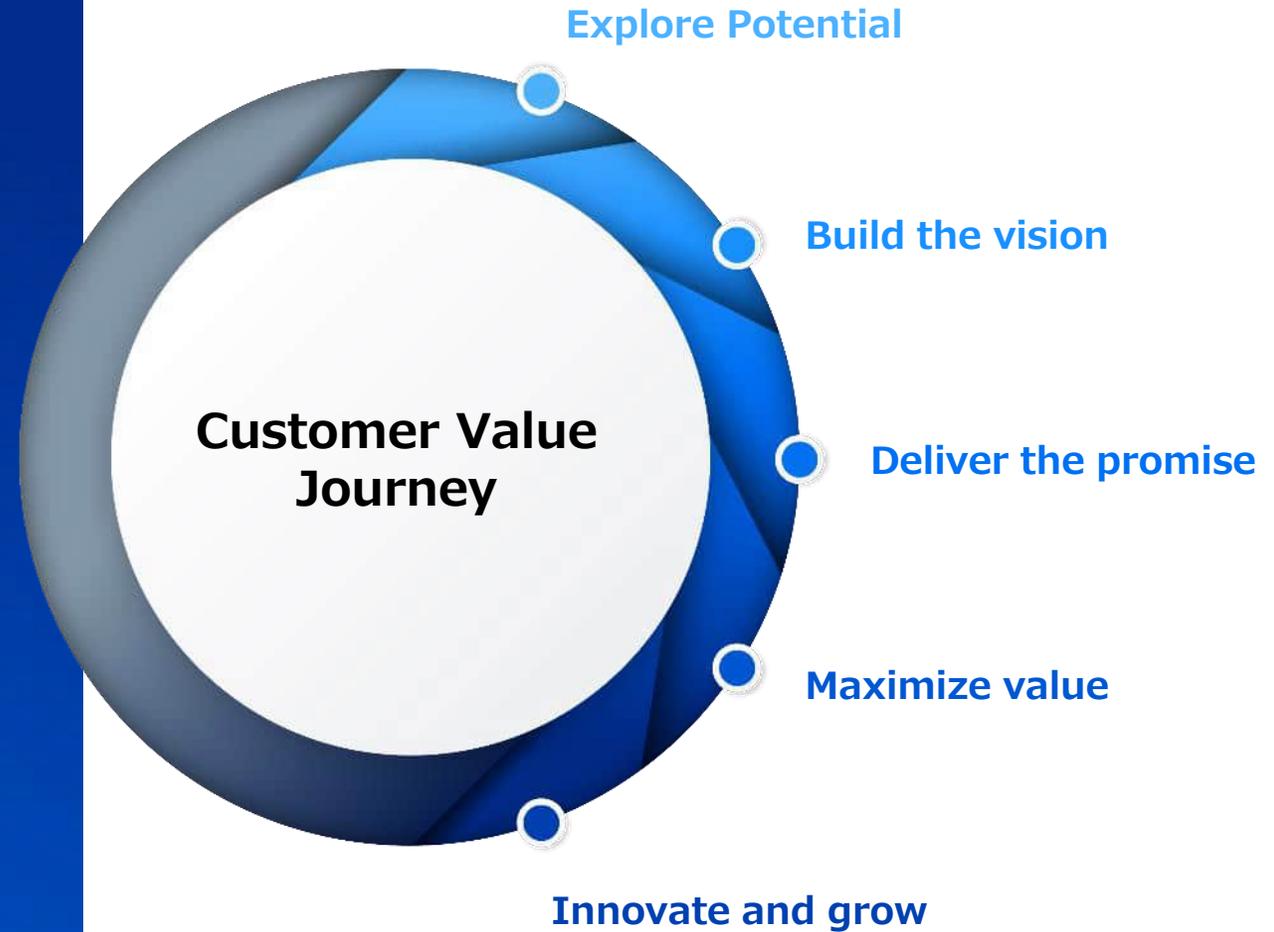
<Processes/Rules>

現行プロセス見直しと最適化、部門間連携

<Systems (IT)>

運用プロセスの標準化と最適化

変革を成功に導くための カスタマーバリュージャーニー フレームワーク



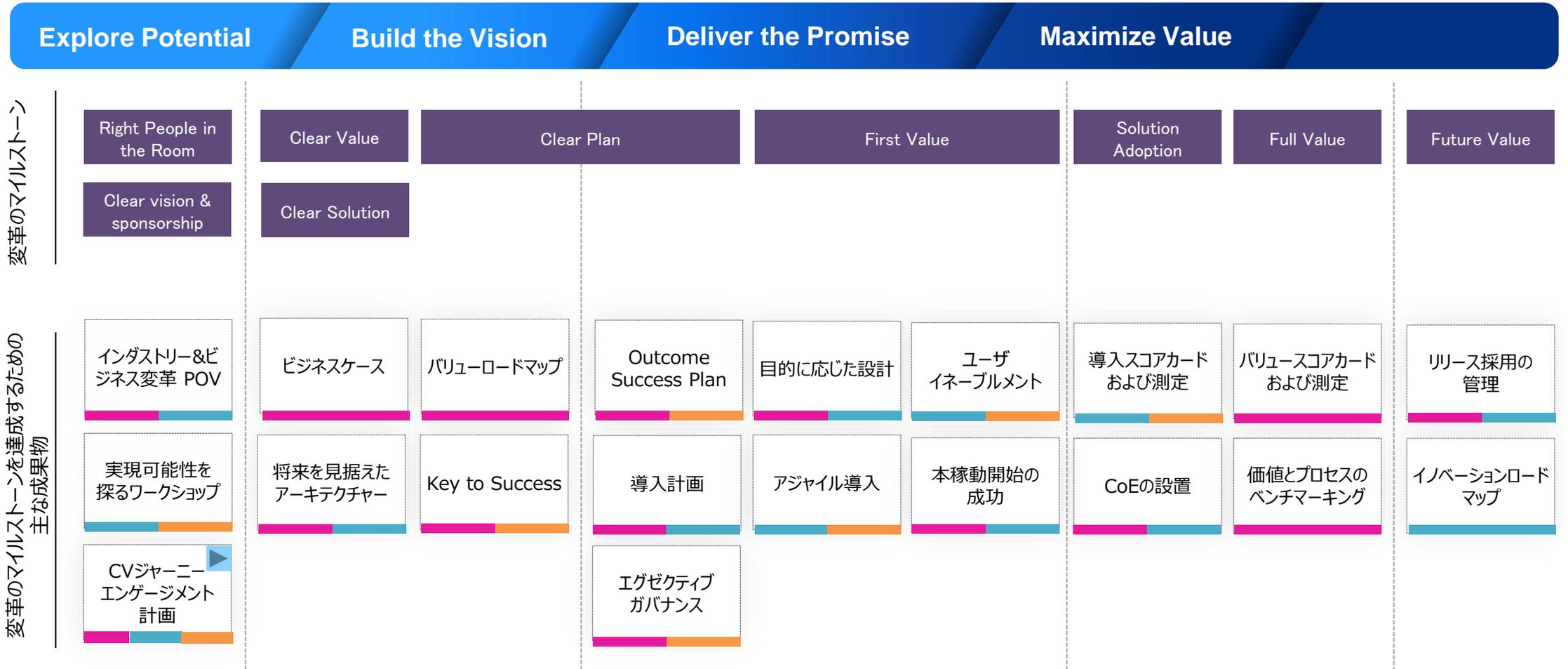
“When digital transformation is done right, it’s like a caterpillar turning into a butterfly, but when done wrong, all you have is a really fast caterpillar”

George Westerman, MIT Sloan initiative on the Digital Economy

カスタマバリュージャーニー

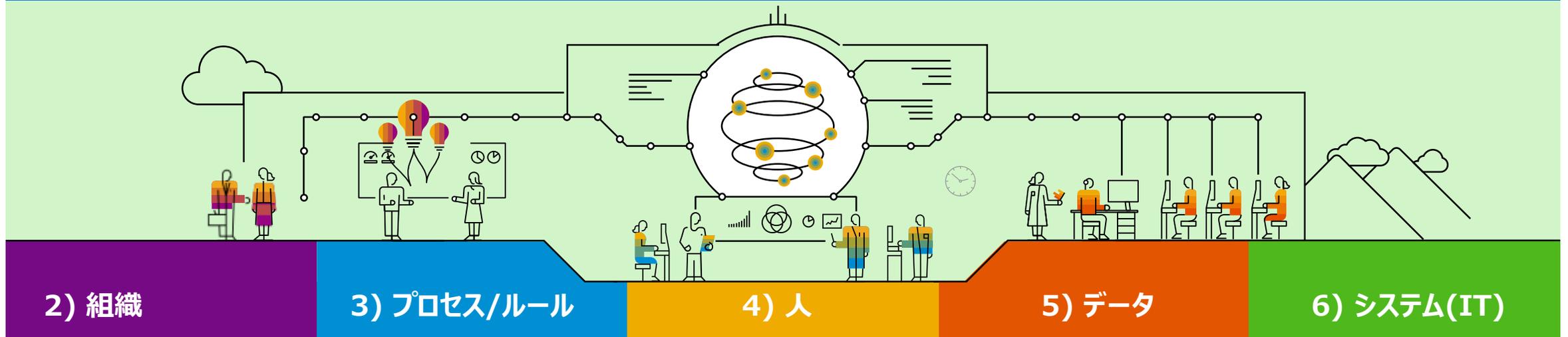
変革の目標を達成するには、強力なコラボレーションが必要です。

価値
 イノベーション
 体験



変革の成功要因 = 変革に必要な要素

1) 北極星（会社としてのありたい姿と大義名分）



SAPソリューションの価値最大化について

PROCESS

業務プロセス管理による可視化と改善
(Signavio)

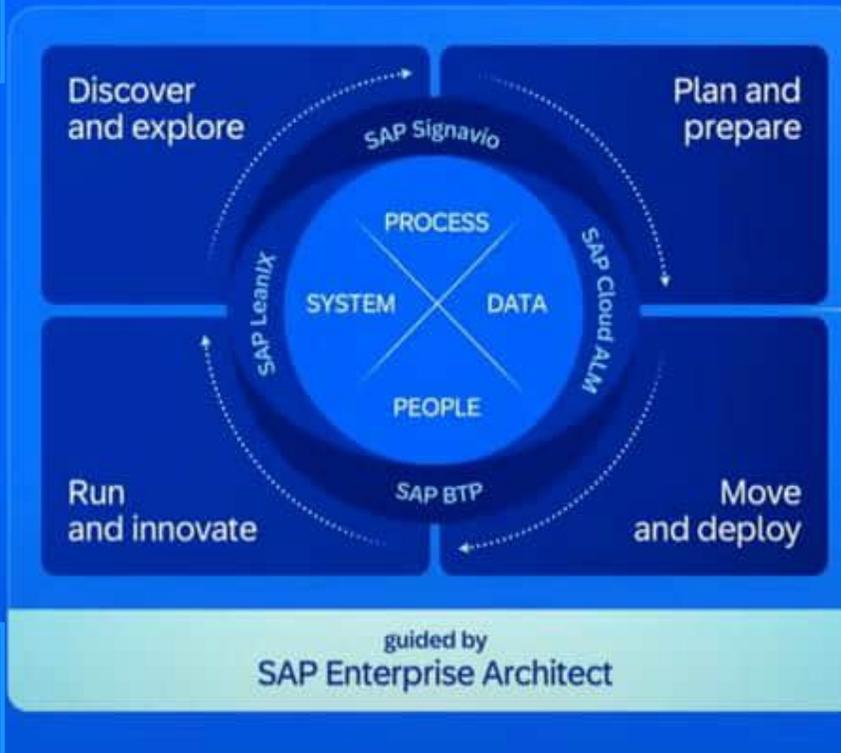
DATA

データドリブンマネジメント
(SAP Analytics Cloud / SAP Datasphere)
複雑なデータ移行プロセスの簡素化
(Syniti)



Monolithic
ECC

RISE with SAP



Modular

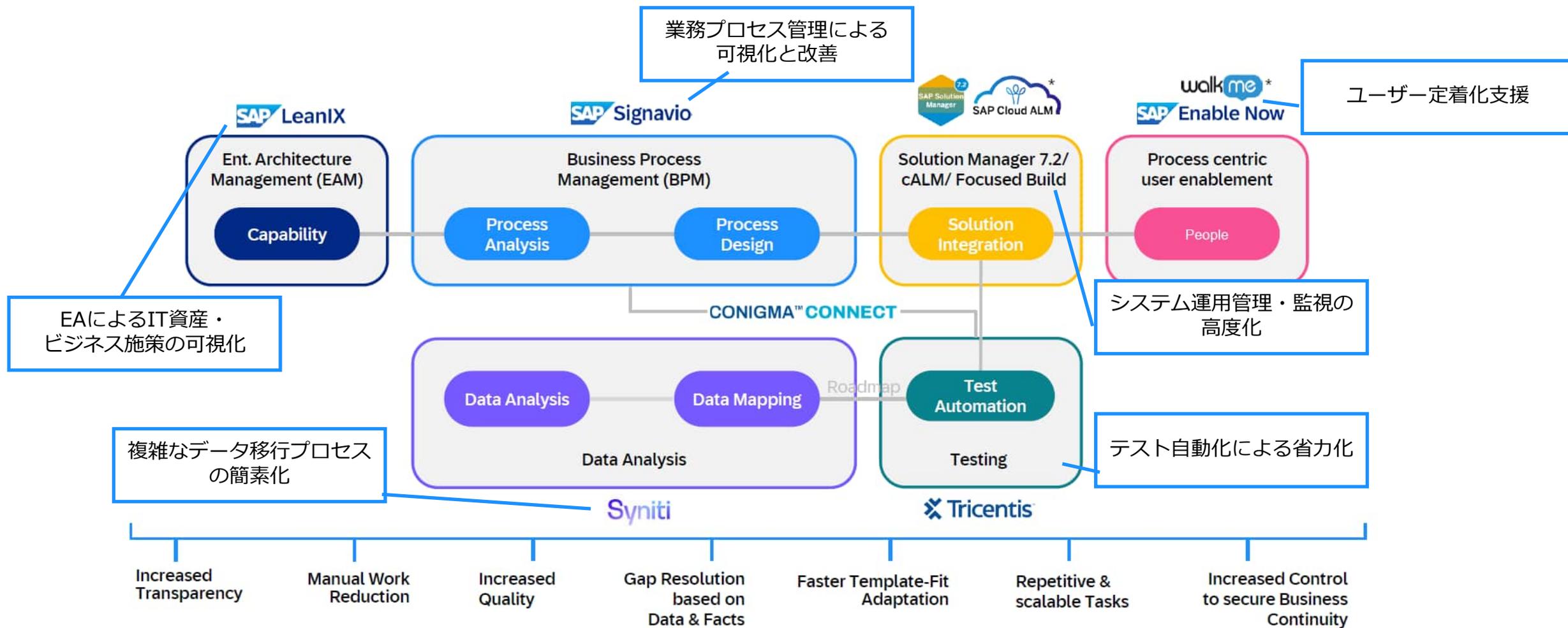
SYSTEM

EAによるIT資産・ビジネス施策の可視化
(LeanIX)
AIによる高度化
(SAP Business AI / SAP Joule)

PEOPLE

テスト自動化による省力化
(Tricentis)
DAPによるユーザー定着化支援
(WalkMe)

導入の短期化と継続的な改善・アップグレード対応 SAP Toolchain



2. WalkMe x SAP によるデジタルアダプションプラットフォーム

2. WalkMe x SAP によるデジタルアダプションプラットフォーム

別スライド参照

3. NIPPON EXPRESSホールディングスのデジタルアダプション成功事例

SAP Japan Customer Award 2022

経理部発グローバルロジスティクスカンパニーに向けた企業変革1stステージ



Cloud Adoption 部門
NIPPON EXPRESSホールディングス株式会社 常務執行役員 大槻 秀史氏 (右)
SAPジャパン株式会社 代表取締役社長 鈴木 洋史 (左)

～1937年（昭和12年）10月1日創立の日本通運株式会社（以下、日本通運）は、私たちの暮らしになくてはならない国内外輸送の担い手として成長してきました。そんな日本通運では、2019年に、中期経営計画「日通グループ経営計画2023～非連続な成長 “Dynamic Growth” ～」を策定し、創立100周年の2037年に向けて、売上高3.5～4兆円、そのうち50%を海外での売上高とする成長目標を掲げています。2022年にはガバナンス強化などを目的として、NIPPON EXPRESSホールディングス株式会社（以下、NXホールディングス）を設立し、ホールディングス制へと移行。さらに、国際会計基準（IFRS）や連結納税制度の導入など、グローバルでのさらなる躍進を遂げる土台を着実に固めています。その背景には、経理部が主導するプロジェクト「プロジェクトITS（イツ）」があります。SAP Japan Customer Award 2022で「Cloud Adoption部門」を受賞した同社に、「プロジェクトITS」が社内改革において果たす役割と狙いについてお聞きしました。～

引用: <https://news.sap.com/japan/2023/02/nippon-express-case/>

NIPPON EXPRESSホールディングス、WalkMe導入でグローバル調達プロセスの統一を推進 ～SAP AribaにWalkMeを連携し、国内59社への展開をわずか5.5ヶ月で実現～

NIPPON EXPRESSホールディングスは、経営プラットフォーム高度化の推進施策のひとつとして、SAP Aribaを活用したグループ・グローバルでの請求書払いに関するプロセス・ルールの標準化及び、ガバナンス強化を進められています。その一環として、グローバル調達プロセスの標準化を推進するために、WalkMeを採用し、国内59社へのSAP Aribaの導入をわずか5.5ヶ月で完了しました。

この導入プロジェクトは、「Fit to Standard」の方針に基づき、短期間で業務プロセスの標準化とシステムの統一を実現し、効果的なチェンジマネジメントにより、各社へのトレーニングなしでユーザーが迅速に新システムに適應できる環境を整えました。これにより、トレーニングやヘルプデスク等に係るサポートコストの大幅削減に成功しています。

本件により、SAP Aribaの導入において、操作ガイダンスや各種Tipsの提供が実現され、ユーザーがシステムの使用方法を直感的に学び、導入期間中もスムーズに業務を遂行できる環境が整いました。また、S/4会計要件（SAP S/4HANAにおける企業の財務会計機能の要件）に基づくデータの入力確認がノーコードで実装され、従来のプログラミングを必要としない環境で効率的にチェック機能が構築されました。これにより、開発工数が大幅に削減され、プロジェクトは迅速かつ効率的に進行しました。また、このアプローチにより、開発者やIT部門の負担が軽減され、ビジネス部門も含めたユーザー自身が容易にプロセスを調整・最適化できる環境が提供されました。その結果、プロジェクト全体のコスト削減と進行スピードの向上が実現しました。

この国内での成功を基に、NIPPON EXPRESSホールディングスは2025年1月から海外グループ会社約60社への段階的な展開を予定しており、WalkMeの活用によりグローバルでの調達プロセスのさらなる効率化を目指しています。今後は、プロセスマイニングとWalkMeの操作ログを連携させることで、業務プロセスの改善点を把握し、さらにWalkMeの活用を拡大していく予定です。また、問い合わせ管理システムを活用して保守業務の最適化を図り、業務の自動化とDXの加速を目指します。これらの取り組みによって、NIPPON EXPRESSグループ全体でのESG対策やサステナビリティ経営の強化、グローバル市場での競争力向上が期待されています。

NIPPON EXPRESSホールディングス 経営プラットフォーム構築推進室長 日下昌彦氏のコメント

NIPPON EXPRESSグループの長期ビジョンである“グローバル市場で存在感を持つロジスティクスカンパニー”の実現に向け、2022年にホールディングス制へ移行し、国際会計基準（IFRS）への移行、税務ガバナンスの強化（連結納税制度を含む）、グループ経理基盤としてのグループ会社へのSAP/HANA導入によりグローバルな財務基盤を強化してきました。

その背景には、経理部が主導する『プロジェクトITS』があり、このプロジェクトにより、私たちは企業運営の効率化とグローバル競争力の向上を達成するべく、経理業務の標準化、ERP活用による見える化を進めており、さらにデータを最大限活用して経営基盤構築を目指しております。

特にSAP Aribaの導入は調達業務の標準化と効率化に大きく貢献し、WalkMeの活用により、トレーニングの負担を軽減しながら迅速な定着を実現しました。これにより、導入直後から現場での業務がスムーズに進行できるようになり、大きな成果を得ることができました。



3. NIPPON EXPRESSホールディングスのデジタルアダプション成功事例 質問一覧

1. グローバル調達プロセスの標準化を推進し、国内59社へのSAP Aribaの導入をわずか5.5ヶ月で完了した、とのことですがどのような取り組みや工夫をされたのですか？
「Fit to Standard」の観点から教えてください。
2. 「Fit to Standard」を推進していく際、経営陣や業務部門からの協力は不可欠です、もちろん抵抗勢力もいたと思いますが、どのような工夫をされましたか？
3. 本稼働後に効果を創出する仕組みや仕掛けなど、工夫されていることはありますか？
4. Aribaの運用プロセスの最適化や新機能への対応などどのように対応されていますか？
5. 貴社におけるIT人材の育成という観点から、どのような取り組みをされていますか？
6. ユーザー教育や定着化の観点から、WalkMeを活用されたとのことですが、どのような効果がありましたか？
7. WalkMe以外の選択肢もあったのではないかと思います、最終的にWalkMeを採用頂けたポイントはどのような点でしたでしょうか？
8. WalkMeの評判や評価について、利用者の方々からはどのようなフィードバックが届いてますでしょうか？
9. ROIの観点で定量面での効果など算出されてましたら差支えのない範囲で教えて頂けますでしょうか？
10. 今後の展望について教えてください。

Thank you

Contact information:

